

「ユビキタスネットワーク時代における電子タグの  
高度利活用に関する調査研究会最終報告書（案）」  
に対する意見の募集

総務省では、平成15年4月から、「ユビキタスネットワーク時代における電子タグの高度利活用に関する調査研究会」（座長：齋藤忠夫 東京大学名誉教授）を開催し、医療、食、教育等の多様な分野で活用が期待されている電子タグの高度利活用に向けて、総合的な推進方策等の検討を行ってまいりましたが、このたび、本調査研究会における検討結果を報告書（案）として取りまとめ、広く国民の皆様から下記の要領で意見募集を行います。

1 意見の募集の対象

「ユビキタスネットワーク時代における電子タグの高度利活用に関する調査研究会」最終報告書（案）＊

2 意見募集の要領

本最終報告書（案）に対して意見がある方は、下記により意見を提出することができます。

記

1) 意見等は、住所、氏名（法人又は団体の場合は、名称、代表者の氏名、主たる事務所の所在地）及び連絡先（電話番号及びメールアドレス）を明記の上、日本語にてご提出ください。

また、意見には、最初に意見の対象となるページ及び項目等をご記入願います。なお、個別の項目ではなく全体に対する意見の場合は、「全体への意見」とご記入ください。

2) 提出期限は、平成16年3月22日（月）午後5時必着とします。

3) 提出方法

提出は、以下のいずれかの方法でお願いします。

なお、FAX、持参又は郵送の場合、ご提出頂いた意見を電子媒体により提出して頂くようお願いすることがありますので、ご承知置きください。

【電子メールの場合】

送付先メールアドレス [e-tag@soumu.go.jp](mailto:e-tag@soumu.go.jp) ユビキタスネットワーク時代における電子タグの高度利活用に関する調査研究会事務局 宛

【持参又は郵送の場合】

## 送付先住所

〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎2号館11階  
総務省 情報通信政策局 技術政策課内

ユビキタスネットワーク時代における電子タグの高度利活用に関する調査  
研究会事務局 宛

### 3 募集期限 平成16年3月22日(月)

連絡先：情報通信政策局技術政策課 塩谷技術企画調整官、田邊企画係長

電話：03-5253-5728 (直通)

FAX：03-5253-5732

e-mail：[e-tag@soumu.go.jp](mailto:e-tag@soumu.go.jp)

なお、詳細については、([http://www.soumu.go.jp/s-news/2004/040223\\_2.html](http://www.soumu.go.jp/s-news/2004/040223_2.html))  
を参照してください。

- \* 「ユビキタスネットワーク時代における電子タグの高度利活用に関する調査研究会」最終報告書(案)概要

#### 検討の背景

- ◆ ユビキタスネットワーク時代の電子タグは、単なる「バーコードの代替としての利用」だけではなく、「ネットワークとの連携による幅広い分野での利活用」が可能。
  - 一> 医療分野、食分野、教育分野等の様々な分野で活用されることが期待
  - 一> ユビキタスネットワーク社会の形成、世界最先端の「IT国家の実現に大きく寄与
- ◆ e-Japan 戦略II(平成15年7月IT戦略本部)においても、電子タグの高度利活用に向けた研究開発、実証実験等への早期取組の必要性を指摘



#### 高度利活用に関する検討

- ネットワークとの連携による電子タグの高度利活用
  - ・ 電子タグとネットワークとの結びつきを深めることによる、様々な分野を想定した利活用アプリケーションの検討
    - 一> 医療、食、教育等を核とした、国民にとって身近で重要な利活用アプリケーションの提示。
  - ・ 電子タグの高度利活用アプリケーション実現に必要な取組み：

- 1) 研究開発、実証実験の実施（技術的課題に加え、セキュリティやプライバシー等の社会的受容性への課題に対応）
  - 2) 相互接続性の確保など、グローバルな視点も踏まえた、標準化への対応
- 新たな周波数利用の可能性
    - ・ 多様な用途で使用可能とするため、周波数の選択肢を増やすことについて検討
      - 950MHz 近辺等において新たなシステムが速やかに使用できる可能性あり
    - ・ 新たな周波数導入に向けて必要な取組み：
      - 1) 実証実験の実施
      - 2) 制度化に向けた詳細検討



#### 今後の推進方策

- (1) 電子タグ高度利活用のための研究開発の推進  
電子タグ情報のシームレスな流通管理や電子タグ上での暗号技術の研究開発を短期間で集中的に実施する。
- (2) 利用者参加型実証実験を通じた社会的コンセンサスの醸成  
幅広い様々な業種間の連携による利用者参加型の実証実験を実施し、その結果を広く公表し、社会的コンセンサスの醸成を図る。
- (3) 950 MHz 近辺等の新たな周波数の利用  
他システムへの影響やタグの性能等について実験を行い、その結果を踏まえた制度化を図る。
- (4) 電子タグの利用促進方策  
様々な ID コードの相互運用のための調整メカニズムの確立、装置購入時等に関する税制支援措置等の検討を進める。
- (5) 安心して利用できるルールの整備  
各分野に共通するプライバシー保護のガイドラインに基づき、実証実験により分野ごとの利用ルールを確立。
- (6) 戦略的な標準化活動の推進  
国際機関や欧米等との連携を強化し、研究開発と標準化を一体的に推進。

## 第 93 回業務委員会が開催される

第 93 回業務委員会が開催されましたので、その概要をお知らせします。

1 日時 平成 16 年 2 月 18 日（水）午後 2 時から 4 時まで

2 場所 当会第 2 会議室

### 3 議事概要

- 1) 事務局から、第 29 回理事会に付議する議案 4 件（H16 年度の事業計画及び収支予算について、並びに当会規程の一部修正 3 件）について、また、第 17 回通常総会の開催と議案等の説明があった。
- 2) 事務局から、アナログ周波数変更対策業務について、1 月末日までの進捗状況の報告があった。
- 3) その他  
事務局から、当会の平成 15 年度事業スケジュールの活動状況報告があった。
- 4) 次回の業務委員会は、平成 16 年 3 月 10 日（水）午後 2 時から開催することになった。

欧州電気通信／  
放送の動き

## SFR、仏次世代携帯電話サービス開始へ

【 Les Echos, 2004/02/11 】

仏 SFR（携帯電話事業者、仏セジェテル傘下）は 2 月 10 日、第三世代携帯電話サービス（UMTS 規格）の実地テストを 2004 年 2 月に一部大都市（パリ、リヨン、リール）で開始すると発表した。テストでは、現 GSM 規格と互換性を持つサムスン電子製の端末を使用する。SFR では、本格的サービス開始は 11 月としている。なお、携帯電話だけでなく、PCMCIA カードを搭載したノートパソコン向けにもサービスを開始する予定で、2007 年には、ノートパソコンの 15 % は次世代携帯電話対応となると見込んでいる。

SFR に出資している英ボーダフォン（携帯電話事業者）は、既に他の国々でサービスを開始している。SFR のサービスも、ボーダフォンのブランドの下に置かれ（一般向けマルチメディア携帯電話サービスの『ボーダフォン・ライブ!』と PC カードの『ボーダフォン・モバイル・コネクト・カード』）、通信速度は 200 kbps から 250 kbps で、現在の GPRS 規格の 5 倍から 10 倍。SFR では、第三世代携帯電話では、従来のサービスの質が改善されるだけでなく、テレビ電話、ビデオ画像やテレビ放送などの新サービスも可能となるとしている。